

日本における働き方とワークプレイスの未来を考える パネルディスカッションイベント

* JOIFA会員企業限定イベント

JOIFA学術人材委員会としては会員の皆様に、もっとJOIFAを活用・利用してもらいたい。
メンバーに役に立つ協会でありたいとの思いから今回のパネルディスカッション開催となり、
会員企業100名ほどの方々、特に若手・女性が多くご参加いただき、ほぼ満席となりました。

開催日 : 2019年6月21日(金) 15:00~17:30

開催場所 : Sola city Conference Center(1F Room-B) : 東京御茶ノ水



■ 学術人材委員会
山田委員長挨拶

■ パネルディスカッション目次 ■

- 前段 : 開催あいさつ、今日のルールなど
- セッション1 : 日本の未来の働き方と働く場を読み解く パネラーからの提言
- カフェブレイクタイム : コーヒーを片手にパネラーとの軽い直接のディスカッション
- セッション2 : パネラーと会場との対話 セッション1での質問などから

<モデレーター>

ジョーンズ ラング ラサル (株)

プロジェクト・開発マネジメント事業部 グループヘッド 溝上 裕二 氏

<パネリスト>

(株) イトーキ FMデザイン統括部 統括部長 二之湯 弘章 氏

(株) オカムラ マーケティング本部 DX推進室 室長・WORK MILLエバンジェリスト 遅野井 宏 氏

コクヨ (株) ワークスタイル研究所 所長 / consulting & more 代表 若原 強 氏

プラス (株) 営業本部デザイン部 部長 兼 PM事業部副事業部長 野中 由美子 氏



<二之湯 弘章 氏>



<遅野井 宏 氏>



<若原 強 氏>



<野中 由美子 氏>



<溝上 裕二 氏>

<概要>

●セッション1：日本の未来の働き方と働く場を読み解く

◆論点 ジョーンズ ラング ラサール：溝上 氏

- ・ 論点 1：日本の働き方とワークプレイスの過去～現在～未来
- ・ 論点 2：日本の働き方とワークプレイスの課題
- ・ 論点 3：明日への課題



◆イトーキ：二之湯 氏

- ・ #Love where you work
(「働く」を通して「企業」も「私」も幸せになる関係性)

◆コクヨ：若原 氏

- ・ WORK SONG Chronicle
(～歌謡曲の歌詞から読み解く、日本人の働き方の変遷～)

◆オカムラ：遅野井 氏

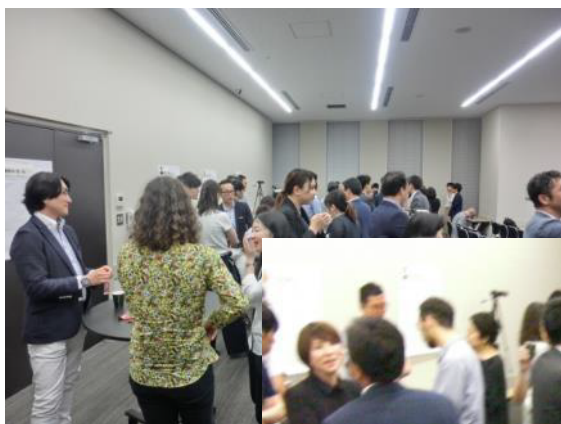
- ・ Tomorrow Work 202X

◆プラス：野中 氏

- ・ 日本の働き方の特徴とワークプレイスの果たす役割

*セッション1の内容は5月29日開催の第6回 働き方改革EXPO パネルディスカッション 日本における働き方とワークプレイスの未来を考える http://www.joifa.or.jp/useful/report_expo_2019_5.html をご参照ください。(一部登壇者は変更しています)

●カフェブレイクタイム：コーヒーを片手にパネラーとの軽い直接のディスカッション



●セッション2：パネラーと会場との対話 セッション1での質問などから

■会場からの質問や興味の高いポイント（slido質問より）

- ・自己裁量の拡大には、ソフト面も重要だと思います。オフィスデザインではなく、人事、福利厚生、人事評価からはどのように変えていくのが効果的なのでしょうか。
- ・ABWはマネジメント改革からという意見に共感します。
- ・偶然の出会いがあったとしても、知らない人と話すのが苦手という人もいると思う。
- ・満員電車に乗って通勤ということが当たり前という社会をJOIFAが旗振り役となり、変えなくてはならないのでは？
- ・JOIFAの活動で副業の推奨はないのですか
- ・日本のオフィスの働き方改革のヒントはオフィスの外（小学校や医療施設や福祉施設など）にもあるような気がしますが、どう考えますか？



■今回のディスカッションイベントに対する参加者意見（アンケートより）

<ICT（Slido）活用について>

- slidoは新鮮。パネラーだけでなく、参加者の考えも確認でき、多くを学べた。
- slidoは質問しやすい。色々な意見が聞けたので、今後も参加したい。
- slidoは良かったが、質問・意見が多く拾いきれないのがもったいない。

<今回のイベントと今後の期待について>

- 回数を増やして交流機会を作ってほしい
- 同業他社の方の話が聞ける機会は業界発展のためにも増やすべき。
- もっと話が聞きたかった
- また機会があれば是非参加したい。
- 自分もディスカッションしたかった。



■今回参加者構成要素（アンケートより構成の高順位）

- ・年代（1：20代・2：30代）= 74%
- ・全体評価（1：とても良かった・2：まあまあ良かった）= 100%

◆イベントを終えて◆

このイベントは、学術人材委員会活動「今後の学術人材関連事業に向けた提言」を基に当業界を取り巻く社会環境がめまぐるしく変化する中で、若手あるいは女性に注目した、実験的なイベントでもありましたが、アンケート結果からも、今後この活動をひとつのモデルとして時代に先駆けて華やかに業界をけん引する力になると感じました。